

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》教授／齊藤 浩司 准教授／小田 雅子
特別講師／井上 昌和（薬害エイズを考える会）

【概 要】

「薬」は様々な疾患の治療に多大な貢献をなし、現代の医療に欠くことのできない存在となっている。その一方で、適正な使用を誤ると「薬」は患者に大きな「リスク」をもたらすものとなる。本講義では、医療における薬の役割や有益性、有害性（安全性）に関する基礎的知識を習得し、総合的な視野に立って歯科医療を学んでいく基盤を形成する。

【学習目標】

- ☆ 現代の医療における薬の役割について概説する。
- ☆ 歯科医療における薬の役割を概説する
- ☆ 薬とテーラーメイド医療について概説する。
- ☆ 薬の生体内運命について概説する。
- ☆ 薬の治療効果や副作用が発現する機序について概説する。
- ☆ 薬物療法におけるチーム医療の重要性について概説する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	医療薬学概論で何を学ぶか。 (課題提出)	- 本講義の全体的な流れを把握し、学習目標を立てることができる。 - 医療薬学に関するレポートをオンラインで提出する。	齊藤 浩司 小田 雅子
2	医療と薬の歴史を知る。	- 医療の進歩について概説できる。 - 人と薬の関わり合いについて歴史的な流れを概説できる。 - 医療の発展に多大な貢献をなした代表的医薬品を列挙できる。	小田 雅子
3	薬の種類を知る。	- 医薬品の定義や多岐にわたる医薬品の分類法について概説できる。 - 医療用医薬品と一般用医薬品の違いを概説できる。	小田 雅子
4	薬の開発の仕組みを知る。	- 新薬が開発されるまでの一連のプロセスを概説できる。 - 非臨床試験について概説できる。 - 臨床試験（治験）について概説できる。	小田 雅子
5	歯科医療に使われる薬を知る。	- 歯科医療に使われる代表的な薬を列挙し、その使用目的を概説できる。 - 処方せんに記載される事項を理解し、処方設計について概説できる。	小田 雅子
6	薬の情報について知る。	- 薬に関する情報の重要性を概説できる。 - 医薬品添付文書の記載事項について概説できる。	小田 雅子
7	薬の投与方法を知る。	- 多岐にわたる薬の投与経路について概説できる。 - 種々の投与剤形とその使用目的の違いについて概説できる。	小田 雅子
8	薬の生体内運命を知る。 (その1)	- 薬の吸収と分布について理解し、生体と薬の関わり合いについて概説できる。 - 薬の吸収、分布と治療効果の発現の関係について概説できる。	齊藤 浩司
9	薬の生体内運命を知る。 (その2)	- 薬の代謝と排泄について理解し、生体と薬の関わり合いについて概説できる。 - 薬の代謝、排泄と治療効果の関係について概説できる。	齊藤 浩司

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
10	薬物相互作用を知る。	- 薬物相互作用の発現機序を理解し、薬と薬、薬と飲食物 - 健康食品の飲み合わせの問題点について具体例を挙げて概説できる。	齊藤 浩司
11	薬物療法に影響を及ぼす要因を知る。	- 薬物療法に及ぼす年齢の影響を概説できる。 - 遺伝子多型が薬物療法に及ぼす影響を概説できる。	小田 雅子
12	薬の有害性を知る。（１）	- 薬の副作用が発現する背景を概説できる。 - 薬の副作用発現と血中薬物濃度との関係を概説できる。 - 副作用を回避するための留意点について概説できる。 - 日本における薬害の具体例を挙げ、その要因を概説できる。	小田 雅子
13	薬の有害性を知る。（２）	薬害被害者の話を聞き、具体的な被害の実際を説明できる。	井上 昌和
14	薬の将来性を知る。	- 医薬品開発におけるパラダイムシフトについて理解し、先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。 - テーラーメイド医療について具体例を挙げて説明できる。	齊藤 浩司
15	チーム医療を知る。	医療に携わる種々の職種について理解し、薬物療法における職種間連携の重要性を概説できる。	小田 雅子

【評価方法】

◇ 定期試験（100％）

【備考】

教科書：その都度プリントを配付する。

【学習の準備】

- ☆ 予習として、シラバスを通して事前に講義内容を把握する。（80分）
- ☆ 授業で配付されたプリントを通して、復習をする。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1.人々のライフステージに応じた疾患の予防、診断および治療を実践するために基本的な医学、歯科医学、福祉の知識および歯科保健と歯科医療の技術を習得するために必要な知識をや悪学の観点から修得する（専門的実践能力）。

DP2.「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を薬学の観点から身につける（プロフェッショナリズムとコミュニケーション能力）。

DP3.疾患の予防、診断および治療の新たなニーズに対応できるよう生涯にわたって自己研鑽し、継続して自己の専門領域を発展させる能力を薬学の観点から身につける（自己研鑽力）。

DP4.多職種（保健・医療・福祉）と連携・協力しながら歯科医師の専門性を発揮し、患者中心の安全な医療を実践するために必要な知識を薬学の観点から修得する（多職種が連携するチーム医療）。

DP5.歯科医療の専門家として、地域的および国際的な視野で活躍できる能力を身につけるために必要な知識を薬学の観点から修得する（社会的貢献）。

【実務経験】

齊藤浩司（薬剤師）、小田雅子（薬剤師）、井上昌和（）

【実務経験を活かした教育内容】

薬剤師としての実務経験を活かした講義をすることで、歯科医療の現場で役立つ知識、技術、態度の習得に寄与する教育を実践している。